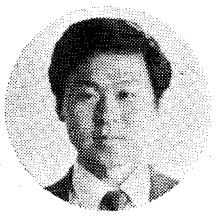
こすど公民館報

発行所 小須戸町公民館
発行人 間野良知
発行日 毎月15日
一部 5円
印刷所 昭栄堂印刷所

成人論文

激動する現代社会と成人の意義

中川義昭



われわれの人生において「成人する」とは、どのような意義があるのでしょうか。

ある辞典に〝社会活動の可能なおとなになる〟とあります。民法に〝未成年者は、未婚の、満二〇歳にならない者であり未成年者が法律行為をするには、原則として法定代理人の同意が必要で、同意のない行為は取り消せる〟とあります。満二〇歳にならない子が結婚するには、その父母に同意してもらわなければなりません。また、未成年者がその所有家屋を売っても、後日これを本人・保護者が取り消すと、売買はなかった扱いとなります。この二つは、その良い例です。さらに公職選挙法によって、成年者に選挙権が与えられています。これらは、ほんのごく一部にすぎませんが「成人になる」ということは、この人間社会における重要な意味をもつということを否定できないのです。

私は、この八月十五日に成人式を迎え、来年の二月五日に満二〇歳となります。昔、男子は十五歳のころ元服して、おとなとして扱われたそうです。ということは、昔の子どもが今と比べて成育が早いということになりますが、これは成育が早いということではありません。現代の社会が昔と比べて、かなり複雑化して生活環境がずいぶん変わってきているから、十五歳ぐらいでは、すべてを任せて社会活動をさせるには、荷が重すぎるからではないでしょうか。

あるバーでは、二〇歳未満は客として扱いませんと入口にあります。これは未成年者飲酒禁止法によって酒が禁止されているからなのです。さらに、そのフンイキというものが、未成年者には多少、問題があるのではないか、という一般的な見解があるのです。

「成人する」という意義は、この現代の復雑な社会の中で、世間の人々から一人前であると認められることにあります。また法により、はっきりと権利を与えられ、義務を負わせられていることも忘れてはなりません。

そういう意味で、今日若者に向けられているさまざまな評価を、もう一度冷静に受けとめ、健全な社会活動ができるよう対処したいものです。

社会の変動が激しければ激しいほど、真実を見抜く目をもたなければなりません。安易に行動したり、時流に流されたりということでなく、信念をもち、謙虚な気持ちで成人の仲間入りをしたいものです。

成人になることを恐れることなく、喜ばしいものであると自覚し、人生を充実させることが大切だと思います。

大和路

我妻清作

願ひごとかけて古寺巡りゆく
大和の国の暑き日照りを
人憎む心うとまし鉦々のなかに
おろがむ観音像に
夏草のほてり眼にしむ大和路を
ひたすら歩むひとをこひつつ

七月二十四日

九月十五日は敬老会です

会場は町民体育館です

最低五万円年金の実現を

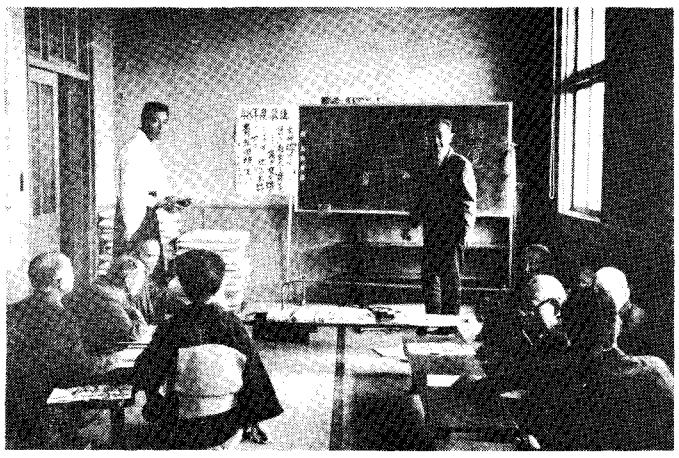
厚生年金制度が施行されてから三十有余年になり、年金受給者も年々増加しています。年金額も逐次改正されておりますが昭和四十四年にようやく二万円年金と云われるようになりました。反面、実際に支給される額は県平均一万四千五百円程度だと聞ています。これでは老後の生活安定どころでなく、飴玉年金と云われても致し方ありません永い間積み立ててきた私共年金受給者は、本当に酷な制度だと思います。

しかし昨年田中内閣の誕生と共に社会福祉優先施策を打ちだし、厚生年金法の改正が問題になりまして昨年九月、与党である自民党社会保障調査会が月額五万円、物価上昇に伴い支給額をスライド制にすることを決議したのですが、前の通常国会では遂に日の目を見ず臨時国会においても会期の再延長により、ここ当分改正案の可決決定は見込みない現況ですが、いずれ原案通り決定すると思います。

私共小須戸町の受給者は、昨秋新潟社会保険事務所並に新潟厚生年金友の会のお勧めで七三名の等同を得て、小須戸支部を結成し、機関紙の配布説明会の開催等によって知っておかなければならない種々の手続き、共通の問題点をお互いに話し合う機会を作っております。今年度の最大の目標は年金額最低五万円支給を目指し、全受給者の総力を結集して実現に邁進することに決定しております。

この機会に年金受給者（老令、通産老令、特別老令、障害、遺族年金）の方でまだ未加入の方は是非入会下さいまして、県連合会を通じ、団結の力で最低五万円受給実現に参画いただきたいと存じます。

入会希望の方は商工会事務所（電二五六〇番）又は最寄りの役員に申し出下さい。詳しい説明とパンフレットをさし上げます。



長寿大クラブ案内

〝余暇時代と公民館〟でみっちり勉強

三市中蒲公民館大会

去る七月十九日白根市教育センターで恒例の大会が開催されました。当町から公民館長教育委員長外八名の方々が参加されました。

「余暇時代に対処する公民館のはたす役割」というテーマで三分科会にわかれ、更に全体会を加え、猛暑にめげず終日実のこもった勉強をいたしました。

要点をあげますと

1、余暇の増大とその善用。

週休二日制等をふまえて青少年、勤労者等の余暇はますます増大する。生活に追われる農山村では余暇どころでないとの声もあるが、そうした中にこそ適当な余暇を見出すよう指導し努力されなければならない。そしてそれが善用については、公民館に大きな役割りが与えられることになる。

2、その受入れ態勢。

・よい施設が必要。

体育館、グランド、図書室、学習室、レクリエーション施設等々。

・学校開放

少くとも体育施設は開放の要がある。

3、グループづくりと指導者、リーダーの養成。

・いろいろのグループをつくってまとまりある活動をさせたい。

特に在学青少年については「こども会」式な組織が必要である。

・指導者としては公民館関係者以外に、広く熱意ある人材をもとめて協力を得なければならない。

こども会についてはPTAや学校教師の奉仕が望ましい。

・自主的活動をうながすために、リーダー養成が積極的になされなければならない。

4、分館を基点とした対策。

できるだけ小地域で、特に分館はその基点となって対策を講じなければならない。

5、社会、学校、家庭教育の密接な連けいはいうまでもない。

以上については助言者の下越社会教育課大平・吹井・大塚三主事先生の御指導が加わったことを付記します。

コンピューターで記帳指導

小須戸町商工会で

商工会では昨年度より県下ただ一つのモデル地区としてコンピューターによる記帳指導の研究を行なってまいりましたが今年度より実用化することになり、国の補助金も決まりました。

コンピューターを取入れた記帳指導とは、従来人の手によって記帳し又計算していましたが、すべてコンピューターによって記帳処理され、月末には試算表に表われ、税務の資材はもちろんのこと、銀行より金を借りる時の参考に、あるいは経営分析の資料に役立っており、しかも早く正確な資料が出き上るため大変好評です、人間のやる記帳力には限界があり、従来ややもすると会員の要望に応えきれなかった点もありましたが、機械化によってその点も解消し会員の希望が一〇〇%満たされるようになりました。大いにご利用下さい。

この機械化研究は県下商工会に事例発表され、国の施策に基づき県全体に普及されようとしており、小須戸町商工会の研究事例は高く評価されております。

とき　8月26日(日)
午前9時より

矢代田分館運動会

ところ　矢代田小グランドにて

暑中お見舞い申し上げます

小須戸町長　五十嵐重雄
議会議員一同
教育委員会
公民館
各学校
東京小須戸会　佐々木詞朗
外会員一同
新潟小須戸会
田中堅太郎
外会員一同

・町民の声として皆さんのご投稿をお願いします。紙上匿名の場合も別に住所・氏名をお書きください。粗品をお届けいたします。

館報編集部

続小須戸風土記

横川浜の名主(一)

柏大治

横川浜は古村で鎌倉・室町時代の文献が残されているが、だれが開発したか等の古い付説は残されていない。やや具体的に示されているのは、長沢名主で横川浜の中興開発者といってよいであろう。次の記録は新津市荻島新田長沢家のものであるが「荻島新田名主惣右工門先祖は三条町五十嵐小文治と申候由、聞伝候乱世之頃に欠落、長沢村へ来暫住居、其の後横川浜村へ来住居、右村開発名主也。此地は大同の頃より人家も有之浜辺之由先祖安置、今存在、龍頭牛王、根芦、三品持伝候二十一代程相続と申伝候五代以前平七、享保四年当村（荻島）へ場所替被仰付候」とあり、長沢家にかなりの横川浜開発当時の文献がある。

御判物写

折カミ
新津組之内、よし開事手柄、次第ニ為、開可申候先開之儀者従。荒申候共年貢米二斗代ニ可、申付候、巳来開。申候者年々張面えこと〳〵三年。休可申付候間、得其意成次第。開可申候共村々。肝煎年貢。請取可上者也
元和六年
霜月廿三日　宣勝黒印

横川浜村
肝煎
百姓中

折カミ
きもいり給として荒地三反候遣間ひらき可申者也。
元和七年　長門書印
十一月廿三日　四吉〃
甚吉〃
五右〃
八左〃

横川浜村
宗右工門殿へ

折カミ
荒地之内田方参反遣候間開作可仕者也
慶安三年　梶三右工門書印
寅霜月十五日　湯浅九郎右工門〃

横川浜村
惣右工門

竪紙
横川浜村芦開斗定事
一、八町三反大九歩田方反別五斗代
外米四一石八斗四升五合
右所納可仕者也
梶三郎兵衛書印
大潟伝右工門書印
溝口奎書印

横川浜村
九郎右工門江
惣右工門江

以上のような貴重な資料がある。

伸びよ青少年 明るく健やかに

心のゆるみがちな夏休み

青少年を明るく健やかに

さる・七月十六日に学校・警察・PTA・保護司・民生委員・補導員・社会教育等関係者が集まり「明るく健康で非行のない素直な青少年を育てる会」を開きました。

その席上で、警察からは新津警察署管内における非行青少年の補導状況について発表がありました。昭和四十八年一月から六月までの間に補導された件数は、四百二件で内訳は小学生十八人、中学生二十七人、高校生百八十八人、その他の学校七人、有職者百三十三人無職二十九人で、その中にシンナー遊びをしていた小須戸町の青少年が六人いたとのことでした。

学校からは生徒に対する夏休み中における生活の心得等についての指導要領が説明されました。また特に親は監督を充分にしていただきたいとのことであり、子に対する指導力が低下していることがあげられました。

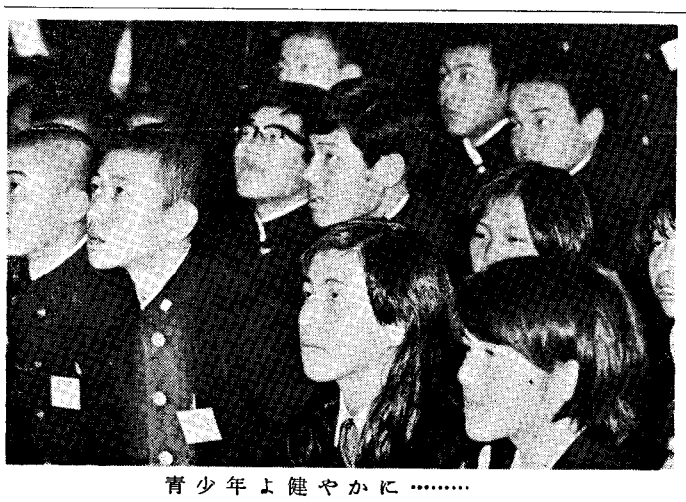
先月の中・下旬より夏休みにはいりましたが、今まで学校で規則正しい生活をしていた小・中学生や高校生は、学校の先生から目の届かない家庭の中に入ってしまいます学校からの解放感が心のゆるみとなったり、青少年はお盆やお祭りのため落着きがなくなります。この時期に最も多く非行が起きやすいので、社会のきまりをよく守り、青少年を明かるく健やかに育てましょう。

◇家庭では…ほんとうの対話。

◇職場では…こまやかな配慮。

◇地域では…さわやかな環境。

毎日第三日曜日は家庭の日です。一家楽しく過ごしましょう。



青少年よ健やかに……

施設が大切 他県視察から

さる七月五日・六日の二日間、三市中蒲公連主催で県外優良公民館を視察して来ました。

今年は秋田県大館市中央公民館を重点的に視察しましたが、同市は人口約七万五千人で小須戸町の七倍もある市にもかかわらず、中央公民館の規模はあまり大きいものではありません。そこで四十九年度に新館を建築する計画を持っておられるとのことです。しかし、この新館規模もあまり大きなものでなく、現在当町で計画中の公民館と同じ位のものです。七万都市としては小さいような気もしますが、この市では七地区に各々分館があり、専従主事がおられて活躍している為、中央館そのものにはあまり負担がかゝらない訳です。

館長さんの描いている構想は、創作活動のできる館にしたいとのことでこれはいろいろな施設・設備を必要としますが、公民館に行けば必ず何かがあり、一人でも創作活動ができるということでまず住民に公民館へ足を向けさせる。それを同趣味のグループ・集団に育成していく方法です。

現在、三市中蒲では横越村公民館に焼き釜がありますが、同村では老人大学等で壺を焼いたりして利用しています。

この方法がすべて良いとはいえませんが、一つの社会教育の方向だと思います。ただ単に館へ集め、講議等を行なうのみでは魅力に欠ける結果となります。各自の自主性を重んじ、各々が創作意欲を持ち、趣味を生かし延ばして行くことが大切になってくると思います

当町にも新らしい公民館ができる構想ですが、皆さんの要望を入れ親しめる館にして行きたいと思います。（白井）

豊かな国土

小須戸中　渡辺淳子

空ははれて風もなく
とてもいい気もち

小須戸　渡辺淳子

（特選作品）

随筆

柿の木のある町 (2)

山名正平

柿の木は、いったい世界の中のどこの地帯にはじめて生えたのでしょうか。中国だという人もあります。中国の陽子江のほとりには、今でも柿の木の原生林が生えているということです。いや日本に最初生えたという人もあります。いずれにしても柿の木は、今ではアジアの温暖の地方に育っています、なかでも、とくに日本の柿の木は、その枝ぶりもよく、またその実も立派だということです。

昔から多くの日本人は柿を愛しました。春小さく、やがてしだいに、大きく、かたく、そして青くなっていく葉っぱ。同じ木にお花とめ花をもちおもしろい花を咲かせたあとの小さなみどり色の実が、夏をすぎ秋になると、あんなすばらしい色になっていく。そしてまた、柿の葉まで紅くなって散っていきます。しぜんのふしぎというほかありません。

昔、九州の有田というところに酒井田喜三右衛門というせともの焼きがありました。あのきれいな色のとりこになり、ほとんどその一生をせともの焼きつけるあの柿の色を焼きつけることについやし、苦心に苦心を重ねてそれを完成しました。人よんで「陶工柿右衛門」といいます。

みなさんは「さるかにがっせん」のはなしを知っているでしょう、昔から柿をもりこんだうたや詩や文章がたくさんあります。徳川時代に向井去来という人は、自分の家に落柿舎という名をつけて多くのすぐれた俳句を作りました。また大正・昭和時代に坪内逍遙という人は、自分の家に隻柿舎（二本の柿の木のある家といういみ）と名づけ、ここですぐれた作品を作りました。

前に述べた壺井栄の「柿の木のある家」は、大きな柿の木のある家に二人の兄と妹がおり、そこにふたごの男が生まれ、その末っ子が小さな柿の木と一匹の山羊を一しょにして、しんるいの家へもらわれていく話しです。

すぐれた作品だと思います。どこの図書館にもきっとある本ですから、みなさんの中にも読んだ人があると思います。

私がバスを降りて、小学校へくる道の中学校の手前に、みなさんもよく知っていると思いますが両がわに柿の木の畠があります。

ある日、私は木に上って手入れをしている持主の高山さんという人に聞いてみました。品種は早生寺社で、もう七／八十年たっている木だということです。私はこの小学校にはじめて来た日から、あの木に目をとめました。私は毎日あの木を見ることが好きです。四月、柿の若葉が萠えました。それからしだいに葉がこい緑になり、大きくなりました。一方柿の実も大きくなり、秋には光るような紅い実になりました。それにもましてあの枝ぶりがまた好きです。冬の日など雪や雨にうたれている黒々とした軒の姿など、なんともいえないえぬたくましさがあります。あの柿は何十年もの あいだ小須戸の町を見て来たことでしょう。長い長い戦争もあの木は知っているがしょう。だんだんかわって来た町の姿も見てきたでしょう。あの柿の木も、今冬の芽をがっちりとつけて春を待っています。まるで人間と同じ生きものです。私はこれからも、この小学校にいる限り、あのたくましい柿の木を毎日見続けていくことでしょう。

おめでとう

県下学生席書大会

さる七月八日、新潟市白山会館で県下学生席書大会の受賞式がおこなわれた。今年の参加者は一万二千名で、本町より次の皆さんが特選となった

特選　中一年　渡辺淳子
〃　小二年　渡辺淳子
準特　小三年　森田佳子

今日もまたせみが鳴き始め、太陽がカンカンと照る中で、わたしは、夏休み中の目標を考えてみました。

わたしの夏休み目標

小須戸小六年一組　皆川浩美

まず第一に「何事も計画を立て実行すること」です。今年の夏休みは旅行やレクリエーションなどが多くあり、計画を立てないでやると、思わぬ事故がおこったり、人にめいわくをかけたりすることがあるので、このことを目標にしました。

第二は「人にたよらず自分で学習や運動をすること」です。これは人にたよらず学習や運動をすると自分のためにならないからです。わたしもものとは母から聞いていましたが、それがわたしのためにならないことがわかったからです。

第三は「毎日の日課は必ずやること」です。わたしの日課は朝と夕方植木に水をまくことです。これは植木がかれるからではなく、根気よくつづけられるかどうかの問題でもあります。

これらの三つは、けっして無理なことではないですが、なまけたり、途中でやめたりしないで、小学校最後の夏休みを、くいのないようにすごしていきたいと思います。

初出場で三位に

下越婦人バレー大会

去る五日、新津市で開催された標記大会に、当町代表は堂々とC組三位入賞の栄を得ました。

各地域の婦人バレーボールが、これを機に今後一段の活躍をされるよう期待いたします。

道路を守る月間

△歩道の自転車、商品等の置場不法使用はやめましょう。

△道路に土砂やごみ等を捨てないようにしましょう。

（開発振興課）

なぎさ

せっかくつくるなら立派な公民館を

町に新らしい公民館を建てる計画が進められているという声が聞かされます。これが本当だとしたら、なんというれしいことでしょう。

今の公民館はあまりにも貧弱で、その上町のまん中で、一日中車の音がやかましく、緑地もなければ駐車場もなく、市日などは前の道路の混雑で入口までふさがれるようなありさまです。

日頃公民館を利用させていただいている私たちは、なんとか早く良い場所に新らしい館をつくってほしいとねがっていたわけです。

ところで、せっかく建てるとなったなら思いきって立派な、世間に対しても自慢のできるようなものにしてほしいものであります。

公民館は役場や学校と共に町を代表する建物だと思います。それだけに町民老も若きも男も女もこどもも、みんながほこりと親しみをもって利用できる、すばらしい施設であるようにと心からねがっております。

私たちは町の財政のことはあまりよくわかりませんが、そこは町長さんからなんとか、やりくりしていただきたいものであります。

私達のこうしたねがいが、ただの噂でなく、ほんとうに一日も早く実現するよう期待しております。

（一婦人会員）

こどもクイズ

さあ考えて??

＝答えは、はがきで公民館へ＝

次の問題の□の中に答えを書いて公民館へお送りください。

答えは、はがきで、ところ、なまえ、学年も書いてください。抽せんで五名に賞品を贈ります。

①九月十五日は□老の日です。

②十月十日は□育の日です。

③十一月三日は□化の日です。

前回の正解と当選者

正解は中学校一校　小学校二校、郵便局二局　七夕は七月七日でした。

多数の応募者から抽選の結果、次の方々へ賞品を贈りました。

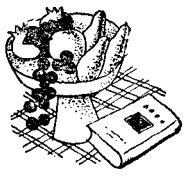
矢代田　木下内　隆
横　町　もりたとしお
五の町　本望百合子
東　町　加藤　紀子
一の町　渡辺　浩子

七月句会報

小須戸町俳句同好会

日々に青田茂り条間塞ぎおり　太浪
竿ゆらぐまで矢車の音弾づむ　紫江
富士五合目は梅雨雲の上に晴れ　峰子
土間暗し市買物の茄子ころげ　山葵
立葵石垣へいの上に炎ゆ　四山
蟬しぐれ短かき弔辞さようなら　越楼
在りし日の母にならいし梅つけぬ　秋蘭
炎天にほてりし貌の月のぼる　虚秋
虫干さる家系のごとく古ぎ衣　静花
かっこうの手竹に高く鳴きかわす　松山
植木棚ぎっしりならびし夏館　香月
肋骨のあらわに日焼け老農夫　良遊
青田早や濃淡深かめ出穂を待つ　樫男

購入図書



◇ぐうたら愛情学
◇ぐうたら交友録
◇恋することと愛すること　遠藤　周作
◇日本礼法入門　小笠原清信
◇総理のおふくろ　谷村　幸彦
◇裏返し忠臣蔵　柴田錬三郎
◇越前戦国紀行　水上　勉
◇狐狸庵雑記帳　遠藤　周作
◇熱気球イカロス5号　梅棹エリオ
◇新選組始末記・誠　子母沢　寛
◇頭のいい七四三の実用集　小沢　和一
◇なくてななくせ　笠　信太郎
◇われらいかに死すべきか　松田　道雄
◇発想のヒント三六五日　竹村　健一
◇戦国の虚将　岡田　稔
◇栄光の岩壁　上・下　新田次郎
◇株の体験　邸　永漢
◇日本沈没　上・下　小松左京
◇赤旗戦略　永田久光
◇絵姿女房　佐久間惇一
◇人を動かす　D・カーネギー
◇平記・同棲　ルック社編集部
◇狂ったサル　ゼント＝ジェルジ